

令和7年度 コンプライアンス研修 年間指導計画

【つくばみらい市立谷和原中学校】

【ねらい】

本校教職員が主体的にコンプライアンスを推進し、「服務規律の確保」「学校事故の未然防止」「非違行為の根絶」に向けて自ら不祥事を起こさないことはもとより、互いの違和感に気づき、声をあげられるような職場の環境づくりを徹底するため次の取組を計画的に実行する。

- ①不祥事の未然防止のための職員間の支持的風土の育成
- ②不祥事の未然防止のための情報共有
- ③不祥事の未然防止及び正しい知識・理解のための効果的な服務研修

コンプライアンス 推進委員会	校長	教頭	教務主任	生徒指導主事	保健主事	養護教諭
	入江 孝	油野 明子	田嶋 裕美	小森 蔵彦	飯田 慎一郎	鴨志田 陽子
	実行委員	1学年	2学年	3学年		
		藤岡 晃一	龍野 千賀	松本 卓		

月	服務課題(重点)	どのような資質・能力を身に付けるか 実…実行委員中心に進行	研修内容 (どのようなことを)	研修方法 (どのような方法で)
4	遵法精神の向上	<ul style="list-style-type: none"> 公務員としての遵法精神の理解 サービスの厳正 会計処理について(事務主任) (資料によるミニ研修 /アンケートフォームによる意識調査) 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に起きやすい個人情報について確認(個人情報の確認、文書の保管、廃棄、個人情報についての内規の確認、会計) 	職員会議冒頭での校長講話。 服務事故防止研修の年間計画の確認。 コンプライアンス推進委員会・実行委員紹介する。
5	人権尊重、いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> 配慮を要する生徒の確認といじめの未然防止 適切な生徒支援の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> 谷和原中いじめ防止基本方針 いじめの定義の確認といじめが起きた際の学校体制について理解する。 生徒理解のための特別支援教育についての研修。 	配慮の必要な生徒への支援方法や生徒理解について学ぶ。
6	交通事故防止 勤務管理の適正化 (長期休業中の勤務)	<ul style="list-style-type: none"> 天候等や悪条件の中の運転の危険性や事故を起こしたときの処分 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務外に起きる事故の例や事故を起こした後の処分など運転する際の注意点を周知し、理解する。 	過去に起こりやすい事故について事例を挙げ、交通事故を起こさないための方策を考え、討議する。教頭が講師となる。
7 8	学年ブロック研修	実 学年ブロックごとに、テーマを決定。ヒヤリハットな事案などを使用して意見交換を行う。 ◎ 緊急記者会見対応 ブロック研修 (熱中症対策)	<ul style="list-style-type: none"> 熱中症による集団体調不良事案に関する緊急記者会見を想定した、対応に関する検討。 	ディスカッションを行い情報共有する。取り扱ったテーマについて、標語にまとめる。 グループでポジショニングペーパー作成し、グループ間協議を行う。
9	体罰、不適切な指導	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解に努め、生徒への合理的配慮を踏まえた指導 	<ul style="list-style-type: none"> 文科省：児童生徒の性加害・性被害への対応資料を活用 	学級運営で起きやすい、体罰、不適切な言動をどのようにしたら避けられるかを話し合い、まとめる。
10	心と体のメンタルヘルス	<ul style="list-style-type: none"> 自身のメンタルヘルスチェックについて 実 テーマを設定して、1学期の困り感について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 教員一人一人がメンタルヘルスについて意識し、勤務できるようにする。ストレス解消についても意見交換をする。 健全な職場づくりのためのアンケート 	メンタルヘルスチェックシートを活用し、具体的な事例を挙げ、一人一人の心身の状況が把握できるようにする。メンター制度の進捗状況の確認。学級運営・授業作りに関する悩みについて話し合う。(学年解体)
11 12	人権尊重、いじめ防止	<ul style="list-style-type: none"> 生徒理解の仕方。生徒の課題行動の意味づけと支援方法を獲得 ◎ 緊急記者会見対応 ブロック研修 (体罰事案)	<ul style="list-style-type: none"> いじめアンケート調査、生徒アンケート実施 人権教育プログラムの活用、人権教育主任が進行を行う。 	アンケート結果からいじめ防止、いじめ対策を考え、対応を話し合う。 ●県スクールロイヤー研修(要望予定)
1	わいせつ、セクハラ防止飲酒による事故	<ul style="list-style-type: none"> セクシャルハラスメント・わいせつ事故防止について 実)相互意見交換をリード	<ul style="list-style-type: none"> これまでの事例をもとにさまざまなケースを紹介し、危機管理をもたせ、再認識させる。校長が研修の講師となる。 	事例をもとに参加型研修を行う。さまざまに起きた事例について自分で考え、対応策を考える。また、人間関係や信頼関係を築けるようにする。
2	私費会計事故	<ul style="list-style-type: none"> 年度末における出納関連の事故防止について 実)ブロックでの出納確認ポイントを伝達・相互確認	<ul style="list-style-type: none"> 1年間の服務事故例を参考に、服務防止のための具体策が実践できたか自己評価を行い、話し合いをする。 (コンプライアンス実行委員から提案。 	学年で1年間の出納状況を確認。保護者へ会計報告について確認をする。会計事故事例を小グループで検討し、発表をする。
3	公金、公物、個人情報等管理と公文書の取り扱い。	<ul style="list-style-type: none"> 通知表、指導要録、成績書類の適切な取り扱いについて 	<ul style="list-style-type: none"> 1年間を振り返り、研修の成果と課題を自覚し、来年度の自己目標を考える。 年度末、年度始めに起こりやすい服務事故について校長が講話を行う。 	書類や個人情報の保管と廃棄についてコンプライアンス実行委員から提案。実情を調査し、課題について討議し、発表を行う。